

第64回県下一周駅伝競走大会から学んだもの

- 鹿児島県では春を呼ぶイベントとしてすっかり定着した大会ですが、先般無事終了し、伊佐チームの頑張りにも大きな力をもらったところです。本校のHPのブログ、テレビ、新聞等で御存知だと思いますが、今年は伊佐チームに本校職員村田慎一（特別支援学級担任）、井手迫正大（1年1組担任）、両職員が選手として出場しました。

村田教諭は大口小に赴任以来4回、通算11回目のベテラン、井手迫教諭は高校生の時に1回出走、それ以来11年ぶりの通算2回目の出走となりました。

大会3日目の郷土入り、恒例の全校応援、その前を井手迫教諭が激走、宮里監督の選手配置にも感謝しながら、わたしも歳のせいか思わず感動の涙がぼつり。応援した子どもたちも、何か感じ学んだはず。日記には多くの感想が綴られていました。

残り三人のところで、井手迫先生が走ってきました。その時はとてもうれしかったです。先生の顔を見て、一生懸命走っていて、本当に心が動かされました。心が動いたのは、「諦めない心」で動いたのだと思います。私はこの心を大切にします。

六年女子

諦めない心！

「きつい、どうしよう。あきらめてもうならないよね。でも、あきらめたらそこで試合終了」井手迫先生の顔を見て、先生が考えていることが頭をよぎった。今日の井手迫先生の限界を超えるあきらめない姿は、これからの私の支えだ。

六年女子

伊佐チームでは、井手迫先生が走りました。夏の水泳学習の練習の時、井手迫先生は「一人きついんじゃない、みんな同じ気持ちなんだ」とおっしゃいました。先生もそういう気持ちを持って走ったんじゃないかと思いました。選手はとても速くて、かついいでした。

六年男子

- 一生懸命に何かに取り組む姿に感動を覚えるのは、人間として当たり前の感情です。

しかし、現代社会において、失敗や真面目さを笑う人もいます。本校ではそんな児童は許しません。友だちの真面目な行動や頑張りを認め、みんなで賞賛する学校を目指します。



